



いと うたう弦

トリーナ・マーシャル
アイリッシュハーブ ソロ公演

2025年

10月24日(金)

18:30 開場 19:00 開演

青山音楽記念館 バロックザール

〒615-8282 京都市西京区松尾大利町 9-1 TEL: 075-393-0011

◆ 阪急電鉄嵐山線「上桂」駅下車西へ 300 メートル

*お客様用の駐車場はございません。ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。
*未就学児の入場はご遠慮ください。

【チケット】◆全自由席 前売券: 3000 円 (一般) 1500 円 (学生)
当日券: 4000 円 (一般) 2000 円 (学生)

【チケット予約】livepocket こちらから▶

*青山音楽記念館 窓口でもチケットを販売中
Tel: 075-393-0011 (9:30-18:00 月火休館)



20 Cultúr Éireann
Culture Ireland
Presenting the World's Best Talent

【後援】Culture Ireland / アイルランド大使館

【問い合わせ】(合) アースボイスプロジェクト榎田まで info@ev-pj.com

アイルランドのハーブ奏者トリーナ・マーシャルは、クラシックとアイルランド伝統音楽の深いルーツに基づいた、独自の表現豊かな演奏スタイルで注目を集めてきました。ダブリンのRTÉ コンサート・オーケストラの首席ハーブ奏者を務めた後、伝説的なアイルランド音楽グループ「ザ・チーフタンズ」のメンバーとして世界中を巡り、数々の舞台上で演奏を重ねてきました。今回の来日公演は、トリーナにとって初めてのソロ公演となります。美しいハーブの音色を、時空を超えて感情と文化を語る「声」として体験いただければ幸いです。

演奏者プロフィール

トリーナ・マーシャル Triona Marshall / アイリッシュ・ハーブ

アイルランドのポートルーシュ出身。7歳でアイリッシュ・ハーブを始め、11歳でコンサート・ハーブに転向。ロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・ミュージックとデン・ハーグのコンセルバトリウムで学ぶ。RTÉ コンサート・オーケストラの首席ハーブ奏者担当。2003年より「ザ・チーフタンズ」のメンバーとして、世界中のトップ・アーティストたちと共演。現在、ソロ活動と並行して、シンガーのアリス・マコーマック、アコーディオン奏者で作曲家のマーティン・トゥーリッシュとのデュオ・プロジェクトにも取り組む。



“spontaneous...full of rhythmical vitality...impeccable” – *The Irish Times*

「のびやかで…躍動するリズムに満ち…非の打ち所がない」 – アイリッシュ・タイムズ紙

“...rejuvenated by minutely nuanced phrasing, supple yet exact articulation ... boldly hued, artfully syncopated...” – *The Scotsman*

「…繊細な表現で命を吹き込み、しなやかでありながら緻密な音づかい…鮮やかな音の彩り、巧みにずらされた拍の妙…」 – スコットスマン紙

曲目（順不同）

1. Parting of Friends 友との別れ

別れの情感が込められたアイルランドの伝統的な旋律で、ハーブやフィドルによってしばしば演奏されます。別離の場面や最後の挨拶のような情景が思い浮かぶ、静かで美しい曲です。

2. Carolann's Farewell to Music キャロランの音楽への別れ

盲目の吟遊詩人・作曲家ターロック・オキャロラン（Turlough O' Carolan, 1670–1738）の晩年の作品とされています。キャロランはアイルランド伝統音楽とバロック音楽の融合を試みたハーブ奏者で、この曲には生涯の終わりを見据えた静かな敬虔さと、音楽への深い感謝の念が込められています。

3. The Musical Priest 音楽好きの神父

活気あるリール（速いテンポのダンス曲）で、フィドル奏者の間でも人気の高い楽曲です。題名の通り、音楽を愛した神父を想像させるような、軽快で陽気な雰囲気魅力です。

4. Rights of Man 人間の権利

18世紀末の政治的雰囲気の中で生まれたとも言われるホーンパイプ。トマス・ペインの同名著作に触発された可能性もあり、自由や平等への願いを音楽に託したような力強さと躍動感を持つ旋律です。

5. Garden of Daisies 雛菊の庭

「ステップダンス」の伴奏として知られる曲で、エレガントで複雑なリズムを特徴としています。タイトルには自然への愛情や、古き良き田園の美が感じられます。

6. Paddy's Rambles through the Field パディの野原散歩

素朴でどこかメロディーが印象的なエア（歌のような器楽曲）で、アイルランドの田園風景や、自然の中での静かな時間を思わせる曲です。「パディ」はアイルランドの典型的な男性名で、親しみやすさを感じさせます。

7. March of the Three Ravens 三羽のカラスの行進

中世のバラッド「Three Ravens（または Twa Corbies）」にちなんだ題名とされることもあります。不吉さと神秘を帯びた雰囲気が漂い、厳かな中にも物語性を感じさせる行進曲です。

8. Poolbeg 小さな潮だまり / マーティン・トゥーリッシュ作曲

《Poolbeg》は、アイルランドのアコーディオン奏者・作曲家であるマーティン・トゥーリッシュによる現代作品です。着想の源はアイルランドの雨でした。トゥーリッシュは、暑い国でのツアーから帰国した際、ダブリンで降る柔らかな霧のような雨に触れ、その優しく包み込むような感覚に深い安らぎと懐かしさを覚えたといいます。この曲は、その心地よさと安堵感を、穏やかな抒情性とアイルランド伝統音楽の軽やかなリズムで表現しています。マーティン・トゥーリッシュはドニゴール県出身の著名なアコーディオン奏者、作曲家、音楽学者で、2008年にはTG4 ヤング・ミュージシャン・オブ・ザ・イヤーを受賞しました。世界的に知られる伝統音楽グループ「アルタン（Altan）」のメンバーとして国際的に活動し、RTÉ コンサート・オーケストラとの共演や、ジャンルを超えた多彩なアーティストとのコラボレーションを行っています。作曲活動は、伝統的なダンス曲からオーケストラ作品まで幅広く、アイルランド音楽の深い理解と現代的な創造性を兼ね備えています。

*以上予定。曲目は予告なく変更する場合があります。*曲の紹介を挟みながら演奏します。（通訳付き）

アイリッシュ・ハーブについて

アイリッシュ・ハーブは、ヨーロッパで最も古い弦楽器のひとつであり、その歴史は千年以上前にさかのぼります。古代アイルランドでは、ハーブ奏者は『語り部（バード）』として尊敬を集めていました。彼らは語りと詩とが一体となった芸術によって、物語や歴史、英雄の名声、土地にまつわる伝説を詩と音楽によって後世に伝えてきました。しかし、イングランドの植民地支配により、バードの伝統は意図的に解体され、18世紀には消滅の危機に瀕します。「抑圧された文化」の象徴となったハーブですが、それでも完全に途絶えることなく、人々の記憶、国の象徴、復興への願いの中に生き続けました。今日、ハーブはアイルランド共和国の国章にもなっており、演奏会はもとより家庭や祭り、祈りの場でも奏でられています。近年では、トリーナ・マーシャルのような演奏家たちが伝統的なハーブに新たな物語性を吹き込み、多くの聴衆の心の奥に語りかけています。本ツアーでは、ハーブが2つの文化を結ぶ架け橋となり、失われた語りの伝統を響かせながら、新たな表現の可能性を開くことを願っています。